

三年学年だより

No. 8

11月号

令和7年11月発行

306HR

受験期だからこそ

今、論理国語の授業では、「ポストモダンと排除社会」という評論を読んでいますね？ この時期にあの評論を読むことは、私としてはとても意義のあることだと思っています。皆さんはどうでしょうか。皆さんに少しでもこの評論の意義を理解してほしいので、この場を借りて書かせてください。

そもそも、私は「多様性の尊重」という言葉に懐疑的です。自分の頭の固さをよく分かっているからです。どうしても受け入れられない人や考え方があって、一応一生懸命努力はしてみるものの、やっぱり無理だ、私はなんて心の狭い人間なんだと自己嫌悪に陥って終わることも、しばしばです。様々な価値観があって、いろいろな人が存在して、それぞれに尊重されること、それが素晴らしいということに異存はありません。でも、それを体現できる人間がどれほどいるか？ 表面的に尊重するフリはできますが、それで良いのか？ 心の底からすべてを尊重できるのは、神か悪魔のどちらかです。人間が本気でそれをしようとすれば、心を病んでしまうのではないかとさえ思います。だから、軽々しくその言葉を口にしたくないし、それを喧伝^{けんでん}する社会の風潮にも、居心地の悪さを覚えています。でも、皆さんは、それを幼少期から、私たちのような大人によって「善いモノ」と教えられてきました。教育は「国家のイデオロギー装置」という一面も、否定できません。しかし、そのせいで、何でもアリになってしまっていないだろうか？ 言った者勝ちの、声の大きい人が主張さえすれば通る世の中になっていないだろうか？ 声の小さな人が我慢させられていないだろうか？ やはり人として絶対やってはならないことや、絶対すべきことは、存在するのではないだろうか？

様々な考えがあるから、人の良心には期待せず、自動改札や防犯カメラのように、違反者を排除するシステムに頼ろうとするのは寂しい。世の中が良くなるには、人と人が、人の心に期待しながら対話・同意・共感するしかないのでは？ わがクラスには、自分が「やらずにはいられないから」、掃除をしてくれたり、仕事を頼まれたりしてくれる人がいます。また、授業では、自分の受験勉強にかまけていた人が、ふと授業に関心を示し、向上心や協力的な姿を見せてくれる瞬間があります。私はそのような姿に希望を見出しながら、教育とは何かを考えながら、今日も教壇に立っています。

(306HR担任)

「基礎」について思うこと

紅葉が色づく季節となりました。各教科ともにこれまで養ってきた基礎を活用しながら、実戦問題に取り組んでいることと思います。

さて、DIY (Do It Yourself) で小屋を建てようとするとき、基礎作りにはとても神経を使います。基礎には、建物の用途に応じて複数の種類がありますが、どれも要所の水平、垂直、直角を正確に測らなければなりません。業者に頼まず、あくまでDIYで小屋を建てたい！！

そんなとき、先人の知恵が役立ちます。水平は、バケツと水と長めのホース。垂直は、タコ糸とナット（下げ振りを自作）。直角は巻き尺を使って三四五^{きしご}（お分かりですね。3：4：5の直角三角形）。時に、さしがね（L字型の金属製定規）一つで、狂いなく寸法を写しとる職人の姿をみると、先人の知恵ほど偉大なものはないと感じます。

これから進路先の決定で悩みが生じることもあるかと思いますが。相談相手はAIの時代……かもしれませんが、案外、身近にいる先人の知恵を参考にするのもいいかもしれませんよ。最後に、基礎がしっかりしている建物は、災害に強く長持ちし、デザイン性に優れます。これまで培った基礎を生かして、自分の人生を豊かにデザインしてくださいね。

(306HR副担任)